

令和7年度第2回三次市男女共同参画審議会 会議要旨

1. 日時 令和8年2月5日(木) 14:00~15:00
2. 会場 三次市役所本館3階会議室
3. 出席者 会長 村田 和賀代  
副会長 山崎 輝雄  
委員 大田 浩之  
委員 八谷 尚幸  
委員 小田 笑子  
委員 岡田 美津子  
委員 池田 大介  
委員 佐々木 より子  
委員 西川 剛  
委員 林 未央
- 欠席者 委員 花本 亮  
委員 新田 茜
- 事務局 三次市地域共創部 部長  
三次市共生社会推進課 課長  
三次市共生社会推進課共生社会推進係 係長  
三次市共生社会推進課共生社会推進係 係員
4. 報告 男女共同参画に関するアンケート結果について
5. 議事 三次市男女共同参画基本計画(第5次)策定スケジュールについて
6. 配布資料 ・次第  
・三次市男女共同参画審議会委員一覧  
・三次市男女共同参画に関するアンケート結果概要  
・三次市男女共同参画基本計画(第5次)策定スケジュールについて

・三次市男女共同参画に関するアンケート集計結果

7. 会議内容

(1) 開 会

(2) 報 告 男女共同参画に関するアンケート結果について

【事務局説明】

【質疑応答】

委 員：市民アンケートでの調査対象は、無作為抽出だが、男女の割合は同じか。

事務局：同じではなく、人口比率、回答率を鑑みて送付しました。若い男性の回答率が低い  
ため、多く送っています。

委 員：事業所アンケートで、10人、20人規模の事業所では、課長、係長がいないところ  
があるので、もう少し規模の大きいところへ送るべきではないか。

事務局：ご意見としていただきます。たくさんの事業者から様々な回答をいただきましたので  
そのような形で行いました。

委 員：指数数値が良くなっていると感じた。令和元年から今回まで、いろいろな面で改善して  
いるところが見受けられる。非常にいいことだと思う。家庭における食事の支度はまだ  
まだ女性の仕事だという意識が強い。家庭内において、男性が料理できるような機会  
を設けながら（講習とか）、いろんな面でそういう機会があれば、また変わってくるよ  
うな気がする。

8 ページで「社会通念の習慣を改めること」という回答の割合が載ってるが、答える方  
が男性か女性かでかなり状況も違ってくる。男女の割合でもう少し深掘りすればわか  
りやすい。

事務局：ご意見としていただきます。割合等の深掘りは今後行う予定です。

委 員：市民アンケートの1ページで、回答者の属性で、年齢別での男女構成比を教えていた  
だきたい。

事務局：回答

委 員：アンケートの属性で、先ほどの説明にもあったように、40代から60代のアンケートの

回答が一番多く、結果もその解答が多くを占めている。若者（18歳から39歳）の回答は少ない。教育現場では平等と感じるという割合が多かったが、18歳から30歳の若い世代の意見をしっかり聞けるようなアンケートをしていただきたい。

事務局：どのような形で意見を集めることができるか、調査票を送るだけではなかなか回収できないので、イベントなどでのアンケートを検討していきたい。

委員：今回の調査では、「職場における平等感」がかなり数値が上がっている。女性活躍という分野は、目で見て、すぐ何か変化が感じれるものではないので、経年変化の調査で、何となく肌感覚で持ってたものが、数値として明確に表れた。特に事業所調査においても、達成している。結果的には管理職の係長や課長が今までいなかった事業所に女性の管理職が増えてきた。ワークライフバランスということで、妊娠や出産を乗り越えて、両立をして辞めずに働き続ける環境も女性活躍において重要である。

また、行政に期待する内容では、市内の他社の情報を伝達することは、重要なことだと思う。行政が扱うものは、全国規模の大企業等が事例になる。地域でよい取組をしている企業を周知すると、非常に他の企業に影響を与えると思う。

事務局：そのような取組も行っています。

委員：市内の地域ごとにデータを集めることはできるか。私の地域では、役員をするのは男性がほとんどになっている。他を見ると、女性がPTA会長されているとか、地域ごとにかなり違うように思う。

事務局：地域ごとになるとまた調査拡大することもあるため、地域のいろんな特色や差があるのかもしれないが、今回の調査では、地域ごとのデータはないので、今後の課題とします。

委員：6ページの、「仕事以外の参加している活動」について、前回のアンケートと比較してもよい数値の傾向にある中で、社会参画については、どれにも参加してないという数字が増加傾向にある。地域との繋がりが減ってるということが、男女共同参画にリンクしているのであれば、計画の中で、何らか盛り込んで、社会参加いただけるように、取り組みできればと思うし、仮にリンクしてないのであれば、市の課題として、施策を行っていくべきだと思う。

事務局：まだ詳しく分析していませんが、実際平等感は上がっていても、地域活動への参加は減ってきてるというのは、何が影響してるのかを分析等をさせていただいて、また地域活動の参加数値も上がっていくような取り組みに反映できたらと思います。

会 長:この地域活動への参画の状況は自己実現のことと関わりがあって、かつては、女性に関しては、仕事の場で自己実現ができないから地域活動(ボランティア活動)に非常に熱心だった。女性も働くようになると、仕事の中で自己実現ができるようになって、地域活動に、時間の問題もあり、あまり参画しなくなる傾向が見られるということは現状としてある。男性は働き過ぎていたので、地域活動はしないということが、起こりがちであった。その中でワークライフバランス+地域活動で自己時間の配分をどうするか、その中でどうやって地域の活動に、男性も女性も参画してもらうかという仕組みづくりは、また状況を踏まえた上で構築していく必要が出てきている。

委 員:女性が社会に出ていくと、家庭の仕事の分担は女性が多い。子どもが小さいときには子育てがあり、地域の活動に仕事が終わってから出るというのは誰が子どもを見るかということになる。高齢になってきたら親の介護などがあり、夜出ることができない。女性への負担が家庭の中で起きてくると思う。言われたように、子どもや高齢者をどのように、社会全体で見えていくのかということも必要だと思う。

委 員:いろいろと地域活動に参加して、数年前に結婚して子どもが生まれて、妻と2人で見ているということで、なかなか夜出ていくことも難しくなっている。もちろんそれは、家族の同意が一番のところではあるが、町内会の活動とか、地域活動に関しては、夜がメインである。組織自体も、人口が減ってるのに、昔の定款のままである。自治会長や事務局を決めるとき、今までのやり方ではこの先難しい。地域活動など、どれにも参加できないのか、したくないのかといえ、おそらくしたくない方が増えていくと思う。そこをもう少し工夫して、アンケートで意見を集約すればよい。学校行事等と合わせて地域活動をすると、子育て世代も参加しやすいのではないかと思う。

委 員:これから三次市の男女共男女同参画を描こうとしたときに、無視できないのは社会情勢と人口減だと思う。やはり男女共同参画というのは最終的に、人口や地域の活動など、社会が成り立つ中での男女共同参画が大切だと思う。この先もそういうふうな取り組みを進めなくてはいけないと思う。三次市も人口が減少していく中で、男女共同参画のしくみをどう組み立てるかというところが一番難しいと思う。この社会情勢、社会が向かう方向というのは決して無視することができないと思う。

事務局:本市の人口だけでなく関係人口の拡大等目指している。そういう方にも参画いただくような取り組みに移行していくことも踏まえて、検討していきたいと思います。

委 員:棒グラフ等の字が小さくて読めない。

事務局:次に作成するときは、配慮する。

委員:知り合いの18歳の男子(大学生)が,このアンケートを答えた。自分は,どこに該当するか選択肢がない。答える項目で,どの視点から答えればいいのか,どの立ち位置で答えればいいのか戸惑っていた。設問に工夫が必要だったのかもしれない。学生として答えるような,設問をご準備したらよかったのかと思う。

事務局:同じような意見をいただいております,前回と比較する設問になってしまうので,そういうところがカバーできてなかったことは反省していますので,次はそういったところも含めて検討します。

### (3) 議事 三次市男女共同参画基本計画(第5次)策定スケジュールについて

#### 【事務局説明】

#### 【質疑応答】

委員:この8年度の審議会資料は,事前に配布いただけるのか。

事務局:事前に配布いたします。

委員:5月には役員が交代し,通して出席できない状況にある。委員が途中で変わるような団体が在籍してもいいのか。次の人は考え方が全く違うので。

事務局:PTA,保護者という立場としてのご意見をいただきたいと思いますので,年度で変わることはありますけれども,ご意見いただきたいと思います。

(4) その他

(5) 閉会